

【パネルディスカッション】

「古利根川の魅力を高める新たな取り組みについて」

パネリスト

春日部商工会議所青年部 柳生 将輝 氏

埼玉県水辺再生課 勅使川原 将吾 氏

倉松川を愛する会会長 内山 裕幸 氏

春日部市副市長 種村 隆久 氏

コーディネーター

日本工業大学 佐々木 誠 氏

【佐々木】

それでは、これより、「古利根川の魅力を高める新たな取り組みについて」と題しまして、パネルディスカッションを始めたいと思います。時間は、予定では16時までとなっておりますが、少し開始時間が押しておりますので、議論が盛り上がると16時をちょっと過ぎてしまうかもしれませんが、ご了承の程よろしく願いいたします。

改めまして、コーディネーターを務めさせていただきます佐々木でございます。どうぞよろしく願いいたします。

では、パネリスト4名の皆様に、自己紹介をしていただきたいと思いますが、柳生様は先ほど事例報告の際に丁寧に自己紹介していただきましたので、また後ほどご発言いただけたらと思います。続きまして、勅使川原さんの方から、自己紹介と、普段の活動についての紹介をよろしく願いいたします。

【勅使川原】

皆様、こんにちは。埼玉県の水辺再生課というところからやってまいりました、勅使川原と申します。私が所属しております水辺再生課がどんなことをやっているかと申しますと、平成20年度から県内の川を再生しようということで、川の再生の取り組みを行っております。最初は、県内100カ所の水辺を再生しようということで、水辺再生100プランというものを行い、川を1本まるごと上流から下流まで再生するという、「まるごと再生プロジェクト」という事業をやってまいりました。現在は「はつらつプロジェクト」という、県内の市町村と連携する形で、水辺空間の利活用を図ろうという取り組みをさせていただいております。その他にも、川の再生の広報活動をし、いかに埼玉県の川の魅力を県内外にPRしていくかということを考え、様々な取り組みをさせていただいております。

このような県の川の再生事業も、今年度で10周年を迎えまして、キャンペーン活動を行っております。今年度は、川の国さいたまの魅力100選の写真募集を5月の終わりごろから現在にかけて実施しております。申込期間が10月末までとなっておりますので、是非皆さんも素敵なお川の写真を撮っていただいて、応募していただければと思います。詳しくは埼玉県のホームページをご覧ください。

長くなりましたが、私の普段の業務内容についてお話しさせていただきました。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木】

ありがとうございました。続きまして、「倉松川を愛する会」の内山様、よろしくお願いいたします。

【内山】

皆さん、こんにちは。「倉松川を愛する会」の内山と申します。普段は「古利根は越えない」と話しているのですが、どういうわけか今回出演してほしいと言われて、ちょっと戸惑っています。

私達の会のメンバーは、平成元年くらいから地域で親睦会をやっていたメンバーでして、新年会、暑気払い、旅行などに行っていました。ただ酒を飲む会だったんですが、たまたま平成17年に、牛島小学校の裏を流れている倉松川に、自転車やスクーターが捨てられている状態でしたので、そのメンバーでどうにかできないかと考えたのが会の発端です。会の活動が、少しばかりは地域の役に立っていると言いますか、多くの人々が会う、集まる機会を作れているのかなと感じております。

そんな感じで日々活動をしております。どうぞよろしくお願いいたします。

【佐々木】

ありがとうございました。それでは続いて、種村副市長、よろしくお願いいたします。

【種村】

こんにちは、種村です。今日はよろしくお願いいたします。

実は、去年私はシティセールスの部署で仕事をしております、このシンポジウムの企画の発端は私だったものですから、本日はこの場にきております。発端というのはどういうことかと言いますと、実は、シティセールスの方で、春日部の“川”と“水辺”について、写真を通して魅力を発信したいということから、過去3年間、女性カメラマンの方にご指導お願いいたしまして、写真が大好きな若い女性たちに来ていただいて、“川”と“水辺”の写真を撮って、それをどんどん発信してもらおうという事業を行ってまいりました。ただ、実施しているうちに、川を撮るアングルとか、写真の撮り方が、どうも皆さん似たりよったりなものだなと思いました。その作品は、本日会場後方にもパネル展示をしております。そうした中で、もう少し川とか水辺に魅力がないと、キレイに写真に撮ってもらえないのかなと思い、写真を撮る事業をいったん今年は休止しました。そして、地域の皆さん、川を愛している皆さんと一緒に、この川の魅力について話し合うことはできないかと思い、皆さんの意見を聞きながら、市としてどんなことができるかを考えていきたいということから、このシンポジウムを開催させていただきました。

先ほど申し上げた通り、昨年からは立場は変わりましたが、本日は責任をもっていろいろお話しできればと思っております。パネリストの皆さんもそうですし、会場の皆さんのいろんなご意見を聞きながら、今後のことを考えていければと思っておりますので、今日はよ

ろしくお願いいたします。

【佐々木】

ありがとうございました。

これからパネルディスカッションを始めるにあたりまして、こちらで今学生さんが動いておりますが、会場やパネリストの皆さんからいただいたコメント、キーワードを学生さんに抽出していただきまして、このホワイトボードに付箋で貼っていきます。それをもとに、今回のテーマである、「古利根川の魅力を高める新たな取り組み」について、どんなものがあるか、何ができるかを、似たような意見などはグループ化しながらまとめて、今日のパネルディスカッションの最終的なゴール、本日のシンポジウムの成果とさせていただきたいと思います。まちづくりのワークショップをするときに、付箋と模造紙を使ってKJ法という手法を取ることがあるんですが、まさにそのスタイルで行い、スクリーンに映すことで、ライブの形で皆さんと共有しながら進めていけたらと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、さっそく具体的な話になりますが、先ほど会場から、川をいくらキレイにしようと言っても結局は清流ではないのではないかというご意見もありましたが、それに関する意見として、お二方にお聞きしたいと思います。まずは、県の水辺再生の立場から勅使川原さん、そして、現場で川に触れ合うことを続けていらっしゃいます内山さんから、清流に関してご意見をいただいてもよろしいでしょうか。まず、勅使川原さん、お願いします。

【勅使川原】

清流ということに関してなんですが、埼玉県全体としても、“清流の復活”を掲げて川の再生を行ってきました。川の水を直接浄化するような取り組みも、実際川口などで実施したりもしているのですが、そういった局所的な取り組みだけですと、川全体の水質を良くするという事はなかなか難しいという懸念もございます。それ以外には、近隣のご家庭から流れてくる排水ですとか、浄化槽の処理への対策など、流域全体を見た施策が必要になってくると感じております。

県では以前から、川を作っていく担当や、川の水質を改善する担当など、いくつかの部局がまたがって取り組みを行ってきました。現在の古利根川の水質も、県の西部地方や秩父地方の川と比べるとまだまだ汚れているかもしれませんが、以前に比べれば、中川・綾瀬川流域の川の水質は改善の方向に向かっていると感じております。実際に数値にも現れております。行政だけではなくて、流域全体の住民の皆さんと協力して、水質改善に取り組んでいくことが重要であると考えております。

【佐々木】

内山さんはどうでしょうか。

【内山】

私の意見ですが、市の環境政策課が公表しているデータを見ると、平成18年くらいまで、

企業単位での努力があっただけで春日部の川のBODの値はどんどん下がっていたのですが、それからは一向に下がっていません。これは、行政もそうですが、我々が個々で対策をしていかなければいけないということを表していると感じております。大半は家庭からの排水がBODを悪化させていると感じておりました、私は子どもにはいつも、米のとぎ汁を川に流さないとか、カレーライスのお皿にこびりついたものを拭き取らずに流さないとか、そういった話をしています。これは、少数の人間がやっても仕方ないので、みんながやっていけばある一定の成果に繋がっていくと考えております。平成18年から今まで、水質は著しく悪化しているわけではないですが、ちょっとずつ悪くなっているかなという感じに思っています。古利根川は、匠大塚さんの後ろ辺りの道から川の中を見ると、ゴミがいっぱい見えますよね。前は見えなかったと思います。あれを見ると、やっぱり自分たちはできることを少しでもやることによって、何か変わるんじゃないかなと思います。

BODは値が5以下になると魚が住めると言われていて、昔は古利根にもタナゴが住んでいましたし、釣り場としてもかなり良い場所ではあったんですが、今の状態では、タナゴは住める状態ではないですね。住めるようにするには、冬場に水量が少ないときに水を流すとか。方法はいろいろあるかもしれませんが、やはり市民が少し川を意識して生活するべきかなと感じています。今は正直言って、古利根川で遊べないですよ。

埼玉県知事は、埼玉県は川の面積が日本一と言っていますが、私は、子どもが川で遊んでいる割合は日本全国で一番少ないんじゃないかと思っています。今日は、おそらく私は子どもの意見を代表してお話しするために出されていると思いますので、もっともっと、子どもが川で遊べる取り組みを考えて提案していけたらと考えています。

【佐々木】

ありがとうございます。子ども、教育につながっていくお話をいただきました。今の話の中にも出ていましたが、自分たちでできることをしたほうがいいとの意見は自分も常日頃感じております。先ほど勅使川原さんの方からは、いろんな立場の人が協力しないと良くなれない、といったコメントもありましたが、勅使川原さんは県という立場ではありますが、行政以外にも共通するご意見かなと思いました。

それでは、そんな中で、市が一体どういったことができるかについて、種村副市長に少しコメントいただければと思います。その前に、会場の方にも、川をフィールドにご活躍されている皆様が多くいらっしゃると思いますので、今のパネラーの皆さんのコメントなどもお聞きいただきましたうえで、なにかご意見等ございましたら、できれば少し短めに、お話しいただければと思いますが、いらっしゃいますでしょうか。それでは、そちらの方どうぞ。

【参加者】

本日は、実は資料を作って持ってきておりました、会場後方で配布させていただいております。今話題になっておりましたが、きちんとしたデータをもって議論をするということが大事だと思います。私がまとめた資料にも、BODがどのように変遷しているのかなど

がわかるデータが入っております。是非ご覧ください。以上です。

【佐々木】

ありがとうございます。データでしっかり客観的に現状を見る、ということは大切ですね。他にはいかがでしょうか。では、そちらの方どうぞ。

【参加者】

先ほども佐々木先生にご質問いたしましたので重複いたしますが、やはり、川を清流にするのが絶対必要だと考えております。川のイベントとか、ソフト面、ハード面の議論も大切かも知れませんが、清流に戻すにはどうしたらよいか、これを考えることが、川の再生の出発点だと思います。単純に言うと、清流に戻すということは、古利根川に用水、排水を流さない、たったこれだけのことで非常に簡単なことだと思います。先ほども話に出ておりましたが、住民が家庭から汚れたものを極力流さないように意識する、ということだけ徹底すれば良いと思います。

あとは、流れないようにするシステムをどのように行政が作るかということです。これに関しては個人がいくら頑張ってもできないことです。よって、行政がこの流域の他市町村と連絡協議会を作って、古利根川の再生について、流域全体が一方向に向かって、下水の管理ですとか、どのように汚れた水の流れを止めるのか、そのシステムについて現状を報告し合い、対策をしていくことが大事だと思います。

もう一つは、先月のよみうりファミリー新聞に出ていた記事ですが、「日本一汚れた川だった綾瀬川が日本一の清流になった」という内容でした。私はよみうりファミリーで電話番号をしているんですが、その記事を見て電話が殺到していました。「この新聞をもっともらえないか」「これをもとに、勉強会をやりたい」との問い合わせでした。そのくらい、川が清流になるということには多くの人が関心を持っていると思います。以上です。

【佐々木】

ありがとうございます。清流になるということにはみんなが関心を持っている、やる気になればすぐできるんじゃないか、といったご意見でした。私が特に気になったのは、単体の自治体だけではなく、近隣の自治体と連携することによって糸口を探ることができるのではないか、といったことでした。このあたりをふまえて、種村副市長、ご意見いかがでしょうか。

【種村】

川を清流にしたいという意見はみなさん一緒だと思います。ご意見いただきました通り、当然春日部の方だけが頑張っても、その上流から汚れた水を流されてしまっただけでは意味がありませんので、流域の各自治体がそれぞれの認識をできるだけ揃えていくことが必要なのではないかと思っています。特に、春日部も川を使ったイベントがたくさんあり、多くの方に楽しんでいただいておりますが、同じように上流の杉戸町でも川を使ったイベントが開かれていますから、皆さんが「川を大事にしたいね、キレイにしたいね」という思いは基本的には変わらないと思います。そのような協議会が、公式でも非公式でも、存在している

のかどうかを認識をしていなかったので申し訳ございませんが、近隣自治体と認識をできるだけ揃えられるように考えていければと思います。ご提案いただきまして大変ありがとうございます。

それと、先ほど内山さんも申し上げておられましたが、水をキレイにするということは大変でありながら大切なことだと思います。環境の問題はすごく大きなものですが、一人ひとりが日々の中で、ちょっとしたきっかけ、心がけでとても大きな効果が出ると思います。市としても、そのことをどんどん発信をしていきたいと思っています。個人の行動が変わっていくことで、目に見えて環境は変わっていくと思います。古利根川の話、というよりは大きな話で、すぐ解決するというのは難しいとは思いますが、ご提案頂いたように流域の自治体で、問題解決に向けての働きかけが出来るかどうか、検討していけたらと思っています。

【佐々木】

ありがとうございます。清流の話だけで終わらないように、他のお話しもお聞きしたいのですが、それでは内山さん、教育に関する話を少し触れられればと思いますがいかがでしょうか。

【内山】

その前に、少しだけ清流の話の続きを少しだけ話させてください。実は、私たちが活動しているあたりは倉松川の終点になるんですが、2011年に、倉松川の上流の起点である幸手の裏のあたりから、下流まで13.8キロ歩いたことがあります。やはりデータに基づいて話すためには、どこで汚しているかは明確にした方がいいと思っています。市役所でも、市内の川のBODの値は調べているんですが、自分たちの足で歩き、同じ日に各場所のBODの値を計り、どこの地域の数値がいいのか悪いのかを調べて、そのうえで議論する、ということが、データに基づいた活動をしているということだと思っています。そして、子どもの話ですね。子どもを川から遠ざけてしまっていることについては、いくら私たちがパワーポイントで立派な資料を作って説明してもどうにかなる問題ではございません。私たちは、牛島小学校の裏で倉松川の活動をしており、子どもたちと生き物調査をしています。実際に子どもたちに、川に触れ合う機会などを作ったりもしていますが、「倉松川がキレイになったら何がしたい？」と聞くと、子どもたちは男子も女子も口を揃えて「釣りがしたい」と答えるんです。私も釣りが好きで、子どもたちにとってもこんな楽しい遊びはないと思っています。ですから、そんな子どもたちの願いを聞いて、何とかしてこれが実現できないだろうかと考えております。以上です。

【佐々木】

ありがとうございます。このあとは、水辺の空間活用ですとか、イベント利用などもさせていただければと思っていますが、先ほど会場からも手が挙がっておりますので、もしご意見ある方がいらっしゃればここで聞きしたいと思っています。それでは、そちらの方でしょうか。

【参加者】

清流にする、という点に関して一言だけお話しさせてください。今日のシンポジウムの題名にもありますように、「大落」と呼んでいるのはどういう意味なのか？」ということになりますが、春日部の地域に限れば、古利根川は絶対に清流にはならない、ということをお話しさせていただきたいです。この点をまず理解していただかないと、空回りするのではないかと思います。ただ、内山さんがおっしゃっていただけましたとおり、データで見れば、古利根川の水質は良くなっていると思います。なので、川の見ただけで判断をするのではなく、そういった知識を持ったうえで、それぞれの活動をしていただければと思います。それだけお伝えしたかったです。以上です。

【佐々木】

ありがとうございます。ではもう一方だけお聞きできればと思います。ではそちらの方お願いします。

【参加者】

今おっしゃられたとおりでと思います。私は「春日部案内人の会」というボランティア団体で普段活動をしています。もともと十数年前までは、私自身は川にあまり関心がなく、知識も全くありませんでした。今話されておりました“大落”古利根川とか、庄和の方にあります“悪水路”ですとか、そういった言葉の意味も昔は知りませんでした。今日も午前中は、宮代の方ですとかさいたま市の方ですとか、越谷市の方たちのまち歩きのご案内をしておりましたが、先ほど内山さんがおっしゃっていたとおり、この時期は川の水の量が少ないので、ゴミがいっぱいあるのがわかるんですよ。水量が多いときにはあまり気が付かないんですが…。私も川について知識が少なく恥ずかしいと思い、十数年前から川のことを調べるようになりました。古利根川についても上流から下流の越谷のあたりまでご案内することもありますし、古隅田川とか内山さんが活動されている倉松川などもご案内することがあるんですけど、まち歩きに参加されている方は皆さん、川に関心を持っていらっしゃいます。なので、知識があまり多くはありませんが、一生懸命ご案内しておりますと、皆さんとても喜んでいただけます。学校の社会科の先生なども案内することがあります。

3～4年前に埼玉県の川の「応援団」の取組みで、ボランティアさんに向けて案内をしてほしいという依頼を受けました。そのときに、春日部の生態系保護協会の方などとタイアップをして、そこで春日部のPRをする途中で、川の水を引き上げて、どのくらい汚れているかということを知ることもやっておりました。そのときから、私自身も川の現状を知り、もっと川をキレイにしなくてはいけないなと思うようになりました。

ただ川を見て「キレイだな」「汚いな」「ゴミが多いな」と言うだけでなく、さらに踏み込んで行動しなくてはならないなと思いました。私たちは、案内を通じて地道に川のPRを続けていきますので、今後とも皆さんにいろいろご指導いただきたいと思います。

【佐々木】

ありがとうございます。今のご意見の中でも“関心を持つこと”が大切との話がありました。関心を持つ人がまちを作っていく、といった中で、今日のシンポジウムの前半で柳生さんから“人”と“人”がつながる」ことで「川が好きになった、関心を深めた」といった話がありました。人が川にどう関わっていくことが大切か、といった話を、ここで少しできればと思います。先ほど事例報告でお話しいただきましたが、それに付け加えて、柳生さんからお話しいただけますでしょうか。

【柳生】

先ほどからお話を聞いておりますと、関心を持つことが大事だと皆さんおっしゃっておいりました。今回私はたまたまイベントを担当しただけではありますが、関心を持つためにはやはり「夕涼みフェスタ」のような川を活用するイベントなどを通して、こんな川があるんだと知ることが大事だと思いました。例えば、今回はイベントで初めてナイヤガラ花火を計画したんですが、近隣の方に、「今度イベントで花火をやるので、煙が来たりとかご迷惑をお掛けしますがよろしくお願いします」と挨拶に伺うと、私より年上の方から「自分が小さいときにもこのあたりで花火をやっていたりしたんだよ」といった話をお聞きすることができました。

今回のイベントが、そのような先輩方の世代、私たちの世代、私たちの子どもの世代と、違った世代が一緒になって楽しめるような体験になって良かったなと感じております。先ほど話にありましたように、川についても、親やおじいちゃんが「前は川に入ってこんな遊びをしたんだよ」といった話を聞いて、小さなお孫さんが「そうだったんだ。僕もこの川で遊んでみたいな」と感じて、川に対しての愛着のようなものが繋がっていけばいいなと思いました。

【佐々木】

ありがとうございます。いろんな方が交流して、川の魅力を共有することが大事ということですね。多くの方が川に関心を持っていただければいいですね。

今日皆さんからいただいているご意見、コメントを今付箋に書いておりますが、色分けをしております、ピンク色の紙に書いているのがハード面、黄色がソフト面、青はハードでもソフトでもない、どちらでもないという問題、ご意見などを書いております。今までのご意見を見ますと、ハードに関するものが少ないのかなと思います。前半で少しお話があったかもしれませんが、空間活用という観点で、例えば川沿いに人が少ないとか明るくないとか、そういった問題を今後整理していく必要があるかと思いますが、そのあたりで副市長からご意見頂戴できますでしょうか。

【種村】

私が今日一番お話ししたかったことは、古利根川が暗いので、もっと明るくしたいということです。実は、ある方々とお話ししておりましたところ、「遊歩道の整備をしたことで、ジョギングするにも散歩するにもとても良い雰囲気になった」と話していただきました。そういった意見は大変うれしく感じておりましたが、一方で、「夕方になるとぱたっと人が

いなくなるよね、すごく暗くて危ないよね」といったご意見も頂いております。そこで、なんとか川の周りを明るくできないかと考えました。あるとき、古利根公園橋の麦わら帽子型のモニュメントがライトアップされている時間に、若い人たちがデートしているのを見かけました。ただ、人がいるのはそのモニュメントの下だけなんですよね。私は、本当はそこから川沿いをずっと歩いて行ってほしいんです。その対策として私が考えているのは、足元に、川沿いの歩道を照らすLEDのフットライトを埋め込むという案です。あるいは、先ほど佐々木先生の講演でも紹介されておりましたが、セヌ川の事例として、夜に川がほわんと明るくなっているような絵が出ておりました。春日部でもああいうことができないかと考えています。もしかするとご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、春日部市役所の敷地内の会之堀川沿いにも実はガス灯が3本立っておりまして、今は使用していないんですよね。何故かという、市役所はガス灯を点けなくても明るいからです。周りが明るくて点ける必要がないと判断し、ガス会社が点けてないんです。昔、点いているところを何度か見たことがあります、ほわんと明るい感じでとてもいい雰囲気なんですよ。なので、これを古利根川に持って行けないものかと考えておりました。これはガス会社と相談してみないとできるかどうかはわかりませんが…。このように、プロムナード的にライトアップしている古利根公園橋から川沿いに続く道を歩いてもらえないかと思っています。

そしてもう一つですが、是非、川の周りにお店を開いてほしいんですよね。先ほど佐々木先生の講演で道頓堀の写真が紹介されていましたが、以前は道頓堀も、みんな川に背を向けてお店をやっていたんです。それが、川がきれいになって遊歩道ができると、みんな道頓堀の川沿いにお店の入り口を設けるようになりました。そうするとお店から明かりが漏れて、川が明るくなるんですよね。明るいから人が川沿いを歩きますし、そうするとみんな「お店に寄ってなにか美味しいものでも食べようか」となります。そういったデートスポットみたいな、いろんな方が古利根川を好きで、愛して、その近くを歩いていただけるように、明るく賑わう場所になってほしいということが今日私が一番言いたかったことです。そのためにこれから頑張っていければと思います。以上です。

【佐々木】

ありがとうございます。川沿いを明るくすることによって、デートスポットになるんじゃないかということでした。ガス灯はいいアイデアですね。是非、ガス会社と調整していただき実現できるといいですね。

ハード面の整備ですとか、それを通して人が集まるとかそういったアイデアが皆さんもあるかと思いますが、会場からなにかご意見などございますか。では、そちらの方。

【参加者】

今の副市長のお話の中に「川沿いに店を作ってほしい」というものがありました。それは大変すばらしいですね。ですが、店を作る人の立場になると、「店を作って人を集めよう」という勇気のある人がどれだけいるかと考えると難しいですね。その逆はいますよね。「人

が集まっているところに店を作ろう」という人はたくさんいると思います。そこで、全国の、或いは埼玉県の中で、人が集まっている川はどこか、という考えをしてみたいかがででしょうか。そうすれば、その取組みからヒントを習って、春日部ならではのアイデアを加えて実施することで人が集まると思います。そして、人が集まれば、いつのまにか自然と春日部にも店が集まってくるのではと思いました。

そこで、勅使川原さんに質問です。埼玉県の川で人を集めている良い事例はありますか。もし埼玉県になければ、県外でも知っているところがあれば教えてください。

【勅使川原】

埼玉県の中でも、河川敷などを活用して民間の方々の力を活かす取組みを実施しております。例えば、飯能河原にバーベキュー施設があるんですが、そこに県の方でウッドデッキを設置しまして、地元の観光協会さんから商店を出していただき、夏場にウッドデッキカフェですとか、ビアガーデンを実施するという事例もあります。先ほど、「まず先に、川に人が集まるのが大事」というご意見もありましたが、自分たちが住んでいる地域で、やはり多くの人々が近くの川に興味を持つということが大事だと思います。全国的に行われている川の取組みとして、「水辺で乾杯」という事業がありまして、毎年7月7日の午後7時7分に、全国一斉に、身近な川に集まって乾杯しよう！という取組みになっています。今まで川に関心を持たなかった人にも是非関心を持って欲しい、という試みになっています。是非このような小さなことからでもいいので、多くの人々が身近な川に行く機会を増やしていければいいのかなと思っています。こういった取組みを通して、古利根川にも人が集まるような機会を作って、そこに目を付けた企業さんが後々にお店などを開いていただけばと思っています。

【佐々木】

ありがとうございます。行政に頼んだりするだけでなく、民間自ら盛り上げていこうという取組みもご紹介いただきました。春日部でも実施出来る事がいっぱいあると思います。それでは続いて、学生さんで手を挙げていた方、いかがでしょうか。

【参加者】

まちづくりに関心があって本シンポジウムに参加しました。今日は今後の川の可能性の話なども聞けて、とてもワクワクしたのですが、明るい川を作るために、来年以降、具体的にどんなことに取り組んでいこうとお考えでしょうか。

【佐々木】

明るい川にするために具体的に何を考えているか、ということですね。副市長どうでしょうか。

【種村】

予算の関係もございますので、なかなか「来年これをやります！」と言えないところが申し訳ないのですが、さっき申し上げた通りいくつかアイデアを持っています。これらは私が言うだけではなくて、地域の皆さんや古利根川を利用されている皆さんが、「こんなこ

とやってほしいなあ」「あんなことできたらいいね」ということを言うていただくのが事業化の一番の近道ですので、「一緒に私達も協力するからこんなことしたい」と声を上げていただければと思っています。ちなみにどんなアイデアをお持ちですか？できれば教えていただければありがたいです。

【参加者】

イベントのように、一過性のものだけでは、まちづくりはうまくいかないと思います。持続的に、市の人であったり、住民であったり、当事者がそれぞれの立場でしっかり考えて行動することが大事だと思います。

【種村】

ありがとうございます。実は、春日部市は今でも川のイベントはすごく盛んで、川を活かしているいろいろ工夫して頑張っているなど私は評価しているんです。イベントをやると本当にたくさんの方が集まりますし、川辺で行うイベントは、夏でも涼しくて気持ちいいですもんね。ただ、おっしゃるとおりその日しかお客さんがいないんですよね。次の日にはゴミだけが残っている。それじゃダメなんですよ。その日に来た人が「あ～やっぱり春日部っていいな」「おもしろいな」って思っただけのような仕掛けが必要で、そのためにはやはり先ほど私が申し上げたとおり、ガス灯とかがあって、雰囲気の良いなと思っただけであれば、もしかしたらリピートして来てくれるかもしれないと思います。

シティセールス的には、「そのまちに5回来たらファンになる」とよく言われています。5回リピートさせるだけの“モノ”だったり“コト”だったり“人”が、春日部にはなにがあるかということをおみんなで考えていきたいと思っています。どうにかして5回来てほしい。おっしゃるとおり、イベントのときだけ人が集まってもダメなんです。その賑わいが365日の賑わいへと繋がるようにしたいとも思っています。

【参加者】

すみません、1つアイデアがあります。

【佐々木】

はい、どうぞ。

【参加者】

幸手に学んだらどうでしょうか。権現堂には、春には桜が咲き、菜の花も咲きます。春が過ぎると、アジサイが咲きます。そしてスイセンが咲きます。幸手は、「花のまち幸手」で売り込んでいます。春日部にも幸手に負けない素晴らしい川辺があります。そこに季節の花々が咲き乱れると、季節ごとにそれらを見に人が来るはずですよ。1年で5種類の花を咲かせれば、5回来ますよね。是非花を活用してください。花でしたら、住民と一緒に植えることで、参加出来ます。

【佐々木】

まさにその花を利用するアイデアとして、11月に春日部大通りの花植えプロジェクトがあります。春日部女子高校ですとか、その他学生さんも参加して頂く予定です。このよ

うに、やってもらうだけではなくて参加型のものだと、自分も関わっているという意識が芽生えてきますね。ありがとうございました。

先ほど学生さんからご指摘があった“持続的な取組み”という点で、今みたいにアイデアを出し合う場があればいいなあと思っております。先ほどの景観まちづくり計画の中では、来年「かすかべ会議」というものを作りまして、市民の方にも参加いただいて、今のような積極的な意見を集めて今後のまちづくりに活かすことになっています。そういった場では、持続的な取組みはなんですか？と質問するだけではなくて、自分はこう考えています、と提案できるようにしていただければと思います。

そろそろ時間になりますので、まとめの方向に入らせていただきたいと思います。先ほどから手を挙げていた方がいらっしやいましたので、ここでご発言いただけますか。

【参加者】

私は、川で6年ほど活動が続けております。今までお話を聞いておりましたが、まず古利根川について語るうえでの前提を知らない人が大勢いらっしやるようですので、私も資料を作らせていただきましたが、春日部の川沿いでは多くの市民の方が活動をされております。

先ほどの副市長さんの話をお聞きしまして、またコーディネーターの方から、ハード面や、川の空間利用の話にも触れたいという話がありましたので、お話しさせていただきます。本日のシンポジウムが「古利根川の新たな魅力創造を考える」ということを目的にしておりますので、そういう筋で考えると、川筋の空間を魅力的に倍増する方法ということを日頃から考えておまして、川沿いに人が集まらないのは、川沿いの道が車に独占されているからだと思っています。あの歩道を緑道化し、車道を半分にすることで、利用者は川沿いを「自分たちの道だ」と思うようになるはずですよ。そうすれば、お母さんはベビーカーを引いて安全に散歩できるようになりますし、近くの幼稚園や保育園の先生が園児を連れて来れるようになると思います。川沿いのあちこちでそういった風景が見れるようになると思います。今の春日部にはない風景です。緑道化というものも是非考えていただければと思います。

【佐々木】

ありがとうございます。歩行者を第一に考えて、緑道化をしたほうが良いのではといったご提案でした。

本日のパネルディスカッションで、いくつかの論点が出てきたかと思えます。環境や教育、水質改善、イベントなどのキーワードや、365日持続的な取組みは何かということや、ハード整備を考えたほうがよいといった話など、さまざま出てきましたが、この論点が抜けているから話したい、という方や、このキーワードは今後必要になるからこの場で共有したい、という方がもしいらっしやれば、短めになってしまいますがお話いただけますでしょうか。では、そちらの方をお願いします。

【参加者】

新しい論点、というほどではないんですが、皆さんの意見を聞いていて、行政や、今ある団体それぞれがやるべきことをやるということはまず大切だと思うんですけど、市民の側から、すぐできることは何かと考えたときに、先ほど埼玉県水辺再生課の方が少し触れていらっしやったかと思うのですが、水辺で乾杯して写真を撮ろう、という企画について、春日部の広報にも載っていたと思いますが、とてもおもしろい取り組みだなあと思いました。ハード面については手を付けるのが難しいとは思いますが、新しいお店ができるのも簡単ではないと思います。例えば、お店に行くときには、なにか理由があって行くと思います。そのお店が美味しいとか、その店員さんに会いたいとか、いろいろあると思います。公園とか水辺も同じで、なにかそこに+αの要素がなくてはなかなか人は留まらないのかなと思います。なので、そこに人が集まるためになにができるかという、今話に出ていた「水辺で乾杯」のイベントは、今あるモノに+αで過ごし方をひとつ提案するものなので、簡単に若い人や皆さまが過ごす風景が見られるのではないかと思います。

【佐々木】

ありがとうございます。市民ができることについてお話しいただきました。それではこちらの方をお願いします。

【参加者】

私は、今後のことを語る上では、現場を見ることが一番だと思います。地元の人を受け止め方、同じ市内でも少し場所が離れたところに住む方の想い、さらに、近隣から来た人の感じ方は違います。春日部駅から歩いて古利根川に来て、あの川沿いを実際に歩いていただくと、四季の動き、変わり目を感じます。写真を撮るにしても、どんな場所がいいのか、どこにキレイな風景があるのか、時期はいつがいいのか、そういったことが見えてきます。是非今回のような室内の議論だけでなく、現場を歩くということをやっていたいただければと思います。よろしく願いいたします。

【佐々木】

はい、ありがとうございます。それではもう一人、こちらの方お願いいたします。

【参加者】

皆さんの中には絵を描いていらっしやる方もいるかもしれませんが、ある有名な方が、「言葉で言えないから絵に描いた」ということを言っておりましたが、まさしく川辺の情景は「言葉で言えないけどいいんだよ。ちょっと来てみなよ」と連れて行かれるような川の風景となればよいと思っています。

写真についても考え方が似ています。人は、誰かに伝えたいとか、ちょっと珍しいなと思ったときに写真を撮ることが多いと思います。先日知ったことなのですが、外国人が日本に来た際に「日本の何を写真に撮るか？」と問うと、お店のご飯とか飲み物とかで、景色とか街並みとかはほとんどないようなんです。その点から言っても、landscape というほどの景色はあまりないということなのでしょう。そういう観点からも、風景をひとつの絵と捉えて、絵描きの人たちが集まってくるような川になってもらえたらと思います。

【佐々木】

ありがとうございます、人を連れてきたいとか、絵や写真にしたいと思うような場所にしたい、ということですね。

予定の終了時刻を過ぎておりますので、そろそろまとめさせていただきます。学生さんが皆様のコメントをメモしていただいておりますが、色分けをしております。付箋のピンク色がハード、黄色がソフト、青がどちらとも言えないもの、といった分け方になっていまして、似たようなものをグループ分けすると、こちらのようになりました。今後、川辺の魅力や、今後の課題を考えるうえでヒントになるものになっていると思います。

まず、「未来のハード」。こちらは、「風景を絵と考える」、「明るくしてデートスポットにしよう」、「川辺にお店を作る」、「店の明かり」、「ガス灯」、「緑道化」などの意見がありました。次に、ディスカッション前半に出ました「清流について」。このテーマは会場からの関心も非常に高かったなと感じています。こちらについては非常に難しい問題で、春日部市単体でできるものではありませんが、市民の方からの願いはとても強いということがわかりました。次に「川と人の結びつき」という点。こちらは「現場を歩く」、「関心を持つ」、「川に実際に触れる」などの意見が出まして、川を通して人が結び付ききっかけになるのではといったご意見などが出ました。次に「多世代交流」。こちらには「子どもたちと生き物調査」、「釣り」、「違う世代が楽しめるイベント」などが挙がりました。次に「イベント」です。既に話にも出ていましたが、4月にある「さくら咲くマルシェ」、夏に行われております「ゆかたでナイト」とか「夕涼みフェスタ」、「水辺で乾杯」など、短期的ではありますが、すぐ取り組めるかもしれませんね。イベントの運営はすごく大変だと前半に柳生さんも話されておりましたが、小さなことならこれからも皆さんもできるかもしれませんね。そして最後に「連携」ですが、「自治体間の連携」、「民間の力を活用」、「いろんな人たちが協力し合う」、「春日部の良さを外部にPR」などのキーワードが挙がっていました。

以上のような内容で、十分まとまっているかどうかはわかりませんが、一つ、未来の春日部の「川を活用したまちづくり」に繋がっていく結果が出たのではないかと思います。今日、前半の話でもありましたし会場からの意見にもありましたが、行政にやってもらうのではなく、取り組んでいくのは皆さん一人一人です。行政の方はそういう市民をサポートする役割だと思います。そして、人それぞれできることはあるかと思います。子どもには川のことを学んでほしいし、大学生くらいの皆さんには実際に何ができるか考えられるでしょうし、柳生様のようなまちの“プレイヤー”は、会場にも何人もいらっしゃると思いますが、そういった方はイベントを企画して実践していただいているでしょう。ただ、全員がそのように積極的になにかに取り組んでいくことは難しいことだと思いますが、それぞれできることを実施できればと思います。

本日は、貴重なご意見を多数いただきましてありがとうございます。パネルディスカッションはここまでとさせていただきます。お集まりの皆さん、ご協力ありがとうございました。